

## 4) 専門科目群

専門科目群は、学科基礎科目、文化論・比較文化系、文学・語学系、歴史・思想系、応用科目、演習科目、修了科目(表5)からなっている。

表5 専門科目群

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 講義	教職	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業
		必修	選択	春学期	秋学期				
<b>共通専門科目</b>									
FYE-100	日本文化概論		2		○	1			オムニバス、指導必修
FYE-100	基礎教育入門(書き方)	1		○	○	1	演習		
FYE-100	文章表現法	2		○	○	1		必	
<b>学科基礎科目</b>									
JLN-100	日本語学概説		4		◎	1~		必	「日本語教員養成課程」必修 10単位選択必修 隔年開講 隔年開講 } 人数制限40名 人数制限30名 人数制限30名 中免必修
JLT-100	日本文学概説		4	◎		1~		必	
JPH-100	日本史概説A		2	○		1~			
JPH-100	日本史概説B		2		○	1~			
JLE-100	日本語教育概論		4	◎		1~			
JLT-100	古典読解A		2	○		1~			
JLT-100	古典読解B		2	○		1~			
JLT-100	近現代文学読解		2		○	1~			
HSG-100	史料読解		2		○	1~			
HIT-100	日本思想入門		2		○	1~			
ARL-100	伝統芸能入門		2		○	1~			
CUA-100	相関文化		2	○		1~			
CUA-100	比較文化概論		4	◎		1~			
HSG-100	文化交流史(アジアと日本)		4	◎		1~			
JLE-200	日本語表現法(ディベート)		2	○		2~		必	
ARL-100	書道		2	◎	◎	1~	実習	選	
JLE-200	国際交流と多文化共生		2		○	2~			
<b>文化論・比較文化系</b>									
ARL-200	日本の演劇		4	◎		2~			隔年開講 隔年開講 隔年開講 隔年開講 隔年開講 隔年開講 隔年開講 
ARL-200	日本の美術		4		◎	2~			
ARL-200	日本の音楽		4	◎		2~			
CUA-200	日本の民俗		4	◎		2~			
ARL-200	日本のポップ・カルチャー		4	◎		2~			
ARL-200	視覚・表象文化(映像文化入門)		4		◎	2~			
ARL-200	視覚・表象文化(グローバル時代の映像)		4	◎		2~			
CST-200	異文化間コミュニケーション		4		◎	2~			
LIG-200	比較文学		4		◎	2~			
CUA-200	文化人類学		4	◎		2~			
CUA-300	日本文化特殊講義		4		◎	3~			
CUA-300	比較文化特殊講義①		4	◎		3~			
CUA-300	比較文化特殊講義②		4		◎	3~			

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 講義	教職	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業
		必修	選択	春学期	秋学期				
<b>文学・語学系</b>									
JLT-100	日本文学史 (上代・中古)		4		◎	1～			
JLT-100	日本文学史 (中世・近世)		4	◎		1～			
JLT-100	日本文学史 (近現代)		4		◎	1～		必	
JLT-100	文学理論		4	◎		1～			
JLT-200	日本文学研究と批評 (古典①)		4	◎		2～			
JLT-200	日本文学研究と批評 (古典②)		4		◎	2～			
JLT-200	日本文学研究と批評 (近現代①)		4	◎		2～			
JLT-200	日本文学研究と批評 (近現代②)		4		◎	2～			
LIG-200	児童文学		4	◎		2～			
LIN-200	言語学概論		4		◎	2～			
LIN-200	対照言語学		4		◎	2～			
LIN-200	言語文化論		4	◎		2～			隔年開講
LIN-200	心理言語学		4	◎		2～			
JLN-200	原典講読 I		2	◎		2～	演習		
JLN-200	原典講読 II		2		◎	2～	演習		
CHL-100	中国文学		4		◎	1～		選	
JLT-100	漢文学概説		4	◎		1～		必	
JLN-200	日本語学 (文法) A		2	◎		2～			
JLN-200	日本語学 (文法) B		2	◎		2～			
JLN-200	日本語学 (音声・音韻)		2	◎		2～			
LIN-200	言語使用と社会		2	◎		2～			
JLE-100	日本語教授法講義		4		◎	1～			
JLE-200	日本語教授法演習		2		◎	2～	演習		注1 } 「日本語教員養成課程」 注2 } 必修
JLE-300	日本語教育実習		2	◎		3～	実習		
JLE-200	日本語教材・教具論		2	◎		2～			
LIN-200	グローバル社会と国際理解		4	◎		2～			隔年開講
JLT-300	日本文学特殊講義①		4		◎	3～			
JLT-300	日本文学特殊講義②		4	◎		3～			
JLN-300	日本語学特殊講義		4	◎		3～			
LIN-300	言語学特殊講義		4	◎		3～			隔年開講
<b>歴史・思想系</b>									
JPH-200	日本史の研究 (古代史特論)		2	◎		2～			
JPH-200	日本史の研究 (中世史特論)		2	◎		2～			隔年開講
JPH-200	日本史の研究 (近世史特論)		2	◎		2～			
JPH-200	日本史の研究 (近代史特論)		2	◎		2～			
JPH-200	日本史の研究 (現代史特論)		2	◎		2～			
JPH-200	歴史と文化		4	◎		2～			
JPH-200	歴史と社会		4		◎	2～			
HIT-200	日本の思想 (儒教)		2	◎		2～			
HIT-200	日本の思想 (仏教)		2	◎		2～			
HIT-200	日本の思想 (キリスト教)		2	◎		2～			
RES-200	比較宗教学		4		◎	2～			
HIT-200	中国思想		4	◎		2～			
JPH-300	日本史特殊講義		4	◎		3～			
HIT-300	日本思想特殊講義		4		◎	3～			

注1 「日本語教授法講義」を修得済みであること

注2 「日本語教育概論」・「日本語教授法講義」・「日本語教授法演習」を修得済みであること

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 講義 演習	教職	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業
		必修	選択	春学期	秋学期				
<b>応用科目</b>									
IND-300	インディペンデント・スタディA		4			1～			
IND-300	インディペンデント・スタディB		2			1～			
IND-200	インディペンデント・スタディC		1			1～			
IND-200	インディペンデント・スタディD		1			1～			
<b>関連科目</b>									
ESS-200	教えるための現代文A		2	○		2～	選	必	隔年開講、注3
ESS-200	教えるための現代文B		2	○		2～	選	必	隔年開講、注3
ESS-200	教えるための古典Ⅰ		2	○		2～	選	必	注4 中免必修 中免必修
ESS-200	教えるための古典Ⅱ		2		○	2～	選	必	
ESS-300	教えるための古典Ⅲ		2	○		3～	選	選	
ESS-300	教えるための古典Ⅳ		2		○	3～	選	選	
EDU-200	キリスト教と学校教育		2		○	2～	選	選	オムニバス
EDU-300	介護等体験及び事前事後指導		2		集中	3	実習	選	中免必修
EDU-200	生涯学習概論		2	○		2～			
LIH-200	図書館情報学概論		2	○	○	2～			
LIH-200	図書館サービス概論		2	○		2～			
LIH-200	情報メディア史		2	○		2～			

注3 2年生以上で、国語科教育法Ⅰを修得済みか、並行履修のこと。

注4 履修要件 (P.96) 参照

科目 ナンバリング	授業科目の名称	単位		開講期		対象 学年	授業形態 講義 演習	教職	備考 ○印週1回授業 ◎印週2回授業
		必修	選択	春学期	秋学期				
<b>演習科目</b>									
SEM-200	専門演習Ⅰ	1		○		2～	演習		同一担当者Ⅰ・Ⅱを付した クラス必修
SEM-200	専門演習Ⅱ	1			○	2～	演習		
SEM-300	卒業研究Ⅰ	1		○		3～	演習		
SEM-300	卒業研究Ⅱ	1			○	3～	演習		
ESS-300	教職演習A		1		○	2～	演習		隔年開講
ESS-300	教職演習B		1		○	2～	演習		隔年開講
<b>修了科目</b>									
SEM-400	卒業レポートA		1	○		4			注5
SEM-400	卒業レポートB		1		○	4			
THE-400	卒業論文		6			4			

注5 1科目1単位選択必修。卒業論文提出の場合は、2科目2単位必修。

## 1. 教職課程について

1年次終了時の卒業要件単位のうち修得単位数が30単位に満たない者は履修できない。また、3年次開設の教職課程科目の履修登録を行うには、2年次終了時に、卒業要件単位のうち58単位以上を修得できていなければならない。「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」および「教えるための古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」についてはステップアップ科目のため、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの順に履修する。

## 2. 演習科目について

演習科目は、専門演習と卒業研究からなる。専門演習と卒業研究は共に選択必修科目である。

- ① 「専門演習Ⅰ」の履修は2年次春学期であるが、1年次秋学期の事前申請によって履修クラスが決定する。
- ② 「卒業研究Ⅰ」の履修は3年次春学期であるが、2年次秋学期の事前申請によって履修クラスが決定する。
- ③ 「専門演習Ⅰ」および「卒業研究Ⅰ」の事前登録日時や選考方法等については、掲示ならびにガイダンスで周知するので、必ず事前登録を行うこと。
- ④ 「専門演習Ⅱ」の履修クラスは原則として「専門演習Ⅰ」、「卒業研究Ⅱ」の履修クラスは原則として「卒業研究Ⅰ」と同じである。
- ⑤ 「卒業研究」を履修する者は、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」を履修し、単位を修得していること。
- ⑥ 春学期に演習科目Ⅰの単位を修得できなかった場合、秋学期は単位なしで演習科目Ⅱを聴講することが望ましい。

秋学期に演習科目Ⅱの単位を修得できなかった場合、翌年度春学期は単位なしで演習科目Ⅰを聴講することが望ましい。

## 3. 修了科目について

4年間の学びを総括するために、4年次に設定してある修了科目の「卒業論文」を履修することが望ましい。また、「卒業レポート」1単位以上を選択必修とする。なお、「卒業レポート」を履修するには、少なくとも「卒業研究Ⅰ」の単位を修得済みでなければならない。

## 4. 卒業論文について

「卒業論文」は、卒業研究の単位を修得した者が、指導教員の継続的指導を受けたと認められ、規定枚数(400字詰原稿用紙換算50枚以上)に達した、一定水準以上の論文を提出した場合に6単位を与えられる制度である。

- ① 卒業論文の執筆を希望する学生は、卒業研究の単位を修得後、指定期間に所定の方法にて教育支援課に願い出ること。「卒業論文」の登録は、卒業見込学期の指定期間に行うこと。指定期間に「卒業論文」の登録をしないと単位は認定されないので注意すること。
- ② 卒業論文は、所定の期間(卒業年度秋学期の13週目)に教育支援課に提出しなければならない。(ただし、提出締切日が休日の場合はその翌日、土曜日の場合は翌週月曜日までとする。)
- ③ 「卒業論文」は主査の教員が、口述試験を経て審査を行い、評価を決めるものとする。
- ④ 「卒業レポートA・B」を通して履修することを提出条件とする。

## 5. インディペンデント・スタディについて

文化への関心・理解を深める、あるいは体験・表現を実践するための有益なプログラムに参加・参画した場合、「インディペンデント・スタディ」として、4単位、2単位、1単位いずれかの単位修得が可能である。単位修得を希望する者は、「Independent study 単位認定に関する内規」に従い、事前に学科長に申請書を提出し、学科会の許可を経て事前指導を受ける。事後、そのプログラム内容により単位が認定される。

## 6. 卒業見込証明書の交付について

卒業見込証明書の発行を請求するには、3年次修了時点において在学期間（注1）が6セメスター以上（2年次編入生は4セメスター以上、3年次編入生は2セメスター以上）で、総修得単位数76単位以上でなければならない。

（注1）休学期間は在学期間に含まない。